

發行編輯人 川崎文治 福島縣石城郡平町長橋町卅五番地 發行所 常磐毎日新聞社

定価 一月五元 三月十三元 半年二十五元 一年四十元
 郵税五厘 印刷所 本報印刷部 印刷 陽社

常磐新聞

刊夕日三月九

電話開設 **御披露**

御注文品は 多少に拘らず 電話二七五番を御利用の上 御下命を乞ふ

平町二丁目横町 鮮魚商 **大堀商店**

笑はないでお呉れ

常磐文藝

笑はずに 宵の夢生

笑はないでお呉れ
 俺は毎日毎日働かねば食ひぬ労働者だ
 朝から晩まで
 時計の様に働き通しに働いてさい
 俺獨りの稼ぎじややり切れ
 ない
 腕白盛りの野郎達が五人もあるんだもの
 ろくな酒も煙草ものめす
 垢じみた伴天にくるまつて
 精限りに働らかなかや駄目
 なのだ
 野郎達が金取りをする様に
 なる迄は
 俺は時計の針だ

一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雑誌が 自由に読める

平町長橋町三五 **川崎文庫**

(申込次第規則書進呈)

渡邊製薬局

工處方調劑 染料薬品

平町三丁目 渡邊政五郎 (郵便局向)

洋食は 向上軒

平町車場新道通り 電話(五二三番)

共同生命保險

加入者(月掛)保險の福音(月掛)保險。營業案内は御一報次第贈ります

共保生命保險株式會社 磐東代理店

加藤實業社 電話三五三番

随筆

先達が少い 長橋野人

現代の名士と云ふものは一體どの程度の人を云ふのであるか、嚴格に決定する必要もなく、また決定する事が甚だ困難である、而し苟くも名士といはれてある人は、青年子弟に好き刺戟を與へる義務があるであらう

痛感する人に乏しい點である

例へば農村振興は今や中央政界の花形たる問題になつて居るが然も其幾十人の政治家中、泥田にありてつぶさに農村生活の辛慘を嘗めた人が幾人あるであらうかその體驗を求めんとしたものが果して何人あらうか

國民は加藤内閣に次第に失望し來るのは、一に此の言行表裏ある點に懸る、先達少きは現に現下の痛感する處である

故原總裁は、生涯を通じて簡素なる一個の平民に過ぎなかつた、氏は多數國民の先達たる必要を考へた

その内閣が、國民多數の信頼する處となつて我國内閣壽命のレコードを爲した事は蓋し偶然ではない

眞に得ま欲しきは力強き先達である

建築材料

磐城セメント樽入袋入
 板ガラス各
 壁用材料各
 ペンキ塗各

セメント、板ガラス安價になりました、御照會を乞ふ

磐城セメント株式會社代理店 **西村屋藥舖**

平町二丁目電話四三番

清酒 鶴仙余松吉屋本店

醸造元 石城郡平窪村

電話二四一番

ナリミルク

お子様方は 正直です。メリーミルクが 大好きさ。申されます。

製造元 東京東葉子社 東京東葉子社 東京東葉子社

電話四〇番

株式買中値

電話に金融致す

銘柄 拂込 時價

磐城銀行	五〇・〇	五三・五
平銀行	五〇・〇	六八・〇
磐越銀行	一一・五	一〇・五
磐城實業	五〇・〇	四〇・〇
磐城實新	三〇・〇	二七・〇
田村實銀	一一・五	一一・五
四倉銀行	一七・五	一七・五
農工銀行	二〇・〇	二四・五
同新	一一・〇	一八・八
百七銀行	五〇・〇	五五・〇
同新	一一・五	一六・〇
七七銀行	一一・五	九・八
郡山電氣	五〇・〇	三三・五
同新	二五・〇	一七・五
只見川電	一一・五	七・〇
植田水電	一一・五	一五・五
好間水電	一一・五	一三・〇
磐城建物	一一・五	五・〇
磐城製菓	二〇・〇	四・〇
平信託	五〇・〇	二五・〇
磐城勸業	一一・五	一三・五
植田物産	三〇・〇	二六・〇
平製氷	二五・〇	二〇・〇
好間軌道	五〇・〇	三〇・〇
入山新	三三・五	一七・〇
小田炭礦	二五・〇	五・〇
磐城炭礦	五〇・〇	四・〇
同新	一一・五	一八・〇
磐城セマン	五〇・〇	六四・五
同新	三五・〇	四・三
平運送	一一・五	八・〇

丸登株式會社 川添房二郎

知事の裁量に待つ

大瀧發電所の處置は

平町處期の目的に

反する結果は斷じてない

平町三萬町民が眞に子孫の爲めに奮然として起つた大瀧發電所との係争は其の後攝政宮殿下の行啓に依り香坂知事の執るべき處置は一利權組の爲にせんとする一部に疑念を抱かしめんとし甚だしきに至つては平町が知事を被告取つて提起した第一回公判期日が来る廿七日に迫つた爲め知事は應訴の覺悟で毛頭も取下げの意志はない様な事を誠じやかに吹聴するものもあるが知事の意中は何論何人にも洩らされたる事なきを以て知

本年の稲作は

平年作以上疑ひなし

石城試験分場發表

二百十日當日に於ける作況

石城農事試験分場の二百十日當日に於ける作況は

種別	草丈	莖數
早生	三、五七	九、七
中生	三、三七	三、一
晩生	三、四六	九、七
三種平均	三、四三	一〇、八

であるが其概況に關し小稿技手は語る「大暑以後の氣候引き続き順調に進み氣温昇騰して日照時間は甚だ多かつたが

降水量 は非常に少く早稲は八月九日、中稲は八月十九日、晩稲は八月廿二日前後出穂した、作柄は今後の天候順調であるならば本年は平年よりも良好の成績を得ること疑ひない、そして附近農家の作況は早害を被つた場所も少くないが灌水

充分で ある場所は試験分場よりも稍々勝つて居る向は二百十日の氣象は最高卅一度九分、最低廿一度一分、普通温度廿六度六分を示して居た」

霜害資金不調

石城郡から巖に縣に對し霜害救濟資金を申込んだのは何れも被害輕微に拘らず申込金額が多額であるとの故を以つて調達が至難である由待ち兼ねた

平局本年度寄附架設電話は外線の工事完成した爲め來る十一月頃から開通する豫定の由であるが右に就いて

平町昨今の商況は

石城郡にては久しい間疲弊困廢の極に達して居た農村も今年の秋蒔が豫想外の高値を唱いて居るので幾分恢復の氣分を現はしかけて居るそれに一時早魃の爲めに備まされた農作物もどうやら其後氣候が順調にいつたので水稻作の如きは是れ又意外の豊況を傳ひられたので農村も漸次景氣が挽回するだらうと豫想されて居る

農村の購買力増す

水稻意外の豊作と

秋蒔相場高値の爲めに

於ける商況も農村からの購買力が大分盛んになつて來たので一時よりは遙かに好況に向つて來た模様である

霜害蠶指導

本日報告會

石城郡にては十四名の養蠶教師を霜害地に派して其善後策に關する指導の任に當らしめつゝあつたが、此程全部任務完了せる爲め本日午前十時から郡衙内に其報告會を開いた



家庭園

赤ん坊の泣く譯

お湯に入れるのも夏などは午前と午後一度づつつかはせませう、汗疹などは出ません、赤ん坊の汗疹は

若向き

の内へ赤又は茶系統の強い色が混つてゐる緋の外に新しい傾向はリング入りのものがある以上は女物で男物には大差はなく綾織が殖わたり位が精々である値段は今春より廉く裾物が十圓前後から

中等物

十四五圓上等物十六七圓と云ふ様子である緋入りは十六七圓であるネルは一體に茶系統で緋入り縞格子縞等子供向きのものが多い一尺廣巾八十五錢位だ

渡邊氏の赴任

既報縣廳土木課に榮轉した平土

告會を開いた

明大對磐炭

野球戦は七日

先般雨天の爲め延期となつた明大對磐炭の野球戦は七日午後一時から磐中新グラウンドにて催さるゝ筈だが好球家の待ちかねた試合であるだけに當日は非常な活況を呈する事であらう

不平受付

投書歡迎

電話架設料金 昨日電話新設の寄附金を平郵便局に持参しました處、其内百五十圓は全部五十圓銀貨でしたが局員は小銭は取扱はないから大きな金で持つて來て貰ひ度いと受付けませんでしたしたが天下の通用貨幣を受取るぬとは一体どう云ふ理由です (不生男)

森平郵便局長の答 計算上種々都合を來す場合が多いので銀貨は十圓迄銅貨は一圓迄以上は取扱はぬ事になつて居る爲局員が成るべく大きいのを持つて來て戴き度いとお願ひしたのだからと思ひます

豊岡視察旅行

那豐岡村にては志賀村長以下村會議員、漁業組合鮮魚商組合、産業組合員等が來る八日頃産業、教育、衛生等を視察の爲め靜岡縣地方へ旅行する由

秋刀魚漁場

磐城丸の調査

磐城七濱の鯉漁は近年にならぬ漁で頗る大打撃を蒙つたが第二の方法として秋刀魚及び鰯の漁獲に鋭意努力しなければならぬ爲め磐城丸は昨日午前三時頃百連觀

常警片々

今年の稲作は平年作以上、但し此調子で天候が順調に續けばだとサ、

日本のお金でも通用しないお役所があるそれは平郵便局(不平受付参照)

小銭は勘定が面倒だからと受け付けぬ、

一体お役所の爲めの人民に人民の爲めのお役所か?

これを一息に三度云ふて御覽、

は値のルセ
い安りよ春

夫れでも思ひ當る節がない様な頭なら叩き壊せ、
あのココナ大ペラボー奴が怒り置くぞヨ、

セルの季節に近づいた今年に世の中が引き緊つて來た影響からか薄手向きのセルは姿を隠して色合は一體に黒味勝ちになつた地は黒で單調なあつさりした縦縞に緋を取入れたものが全盛である

本監督所長渡邊吉吉氏は五日午前九時赴任の途に着く由因に後任者は中村同監督所の渡邊新次郎氏であらう

信用組合監査 石城郡にては尾形産業主事が三日神谷村、四日好間村の信用購買組合を監査し順次各組合を監査する

秋刀魚漁場 磐城丸の調査

磐城七濱の鯉漁は近年にならぬ漁で頗る大打撃を蒙つたが第二の方法として秋刀魚及び鰯の漁獲に鋭意努力しなければならぬ爲め磐城丸は昨日午前三時頃百連觀

出生
△久保町 當時石城郡内郷村大字 磯小澤宮次郎氏長男男
△新川町 鈴木三郎氏五男男
△一丁目 武田爲秀氏二女トシ子
△三丁目 佐藤金作氏三男男
△鐵田町 福本傳吉氏(三〇)同町 白石ミナ(二二)

死亡
△胡原澤 鈴木利政(四七)
△胡原澤 當時仙台市東七番町 栗山敬三(一一)